

災害に強いまち豊岡



【豊岡学区】

■世帯数：3,770 世帯

■人 口：7,995 人

■面 積：0.908 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・学区独自に 160 人の避難所運営組織委員を組織し、町内会総務班・施設班・食料班・物資班・救護班・炊き出し班など、各班別に実際に災害が起きたことを想定して防災訓練を行う。延べ参加者数は約 800 人。
- ・平成 18 年に防災無線機を全町内会に 2 台ずつ、全 29 台の防災無線機を導入し、訓練に使用している。また、無線機を使用して年に 3 回高齢者世帯へ安否確認訓練を実施している。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧

【アピールポイント】

災害をイメージしながら、自分たちの防災訓練を行い、被害をできるだけ少なく、また防災無線機を活用し、災害時の被害情報の共有化、避難所の受け入れ等リアルタイムに知ることができる。

2 きっかけ、背景

行政に任せて防災訓練を毎年実施してきたが、行政頼みの訓練だけでよいのか疑問を抱くようになり、災害時は、自分たちのまちは自分たちで守らなければならないと、災害時のシミュレーションをしながら、実践に即した訓練をすることになった。平成 13 年に学区独自の避難所運営組織委員（約 160 人）を立ち上げた。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、各町内会、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員
計約 160 人

(2) 他団体との協力

瑞穂区社会福祉協議会の災害ボランティアの指導を得て、災害時のボランティア受付等の訓練を実施している。

4 実施のスケジュール

毎年 5 月 水防訓練にて高齢者世帯、高齢者独居世帯の安否確認訓練



9 月 総合防災訓練にて高齢者世帯、高齢者独居世帯の安否確認訓練



10 月 物資班・食料班・本部班合同会議
施設班・救護班・本部班合同会議
町内会総務班・本部班合同会議



11 月 第一日曜 学区防災訓練にて
高齢者世帯、高齢者独居世帯の安否確認訓練

5 成果と課題

(1) 成果・効果

住民意識の高まり、交流の深まり、担い手の増加。毎年同じ防災訓練を行うことで、各班委員の防災意識の高揚と各々が何をすべきかを理解している。

(2) 苦労した点

参加者の確保、住民の理解を得ること。学区独自の避難所運営組織委員を立ち上げた当初は、参加者の確保と活動への理解を得ることが大変だった。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続、担い手の世代交代が課題。地域では高齢化が進んでいるが、元気な高齢者が助け合う絆づくり（共助）をもっと広めたい。

(4) メッセージ・アドバイス

ふれあいネットワークを充実して絆を深め、町内単位で安否確認者を把握する支援をして、学区でまとめる体制の仕組みづくりを進めていきたい。

